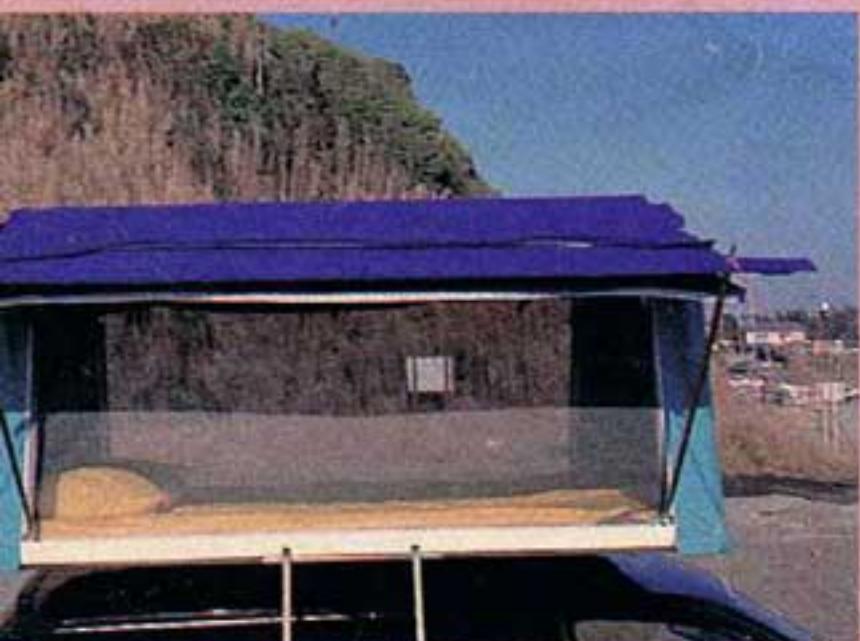


居住性の高さが魅力の ジィファー／オーバーキャンプ



（ひさし）にもなるサイドパネル。風のある日はペグダウ定してやる。ロープ、ペグは付いていない



のパネルを巻き上げると、全面メッシュにするこ
る。これ以上の昼寝場所はそうそうないだろう

ファーストモデルは、なんと40年近くも前から販売されているというルーフテントが、このオーバーキャンプだ。片側にルーフテント、反対側にはカヌーキャリアやサイクルキャリアを装着した写真は、かなり以前からヨーロッパのアウトドア雑誌に掲載されていた。ルーフから降ろしてオブションの脚を付けければ通常のテントとして使うこともできる。脚のほかにさまざまなバーツがあり、本国イタリアではかなりメジャーなアウトドア・グッズなのだが、ここ日本ではまるきり無名だった。前出のコロンブスに比べれば（比べること自体かわいそうだが）設営には手間がかかる。しかし、イタリアのおおらかさが各所に感じられ、楽しきいっぱいのテントなのだ。

ルーフテント全般にいえることだが、装着にはルーフやルーフフレールの強度チェックが必要不可欠だ。ヨーロッパ車の頑丈なルーフにはオーバーキャンプをダブルで取り付けたりしているが、日本車の貧弱なルーフでは単体使用が限界だろう。なるだけ均等にルーフに加重するようセッティングするのが望ましい。



フィッシングのベースとしても最適だ。砂浜近くで使っても、テントに砂が飛びこむ心配が少ない



クローズ状態のサイズは長さ2m×幅65cm×高さ30cm。ちなみに重量は45kg。高速走行時には風切り音が多少ある

寸になる。

